



か え で ゆ う び ん 2月号

2023年2月1日
社会福祉法人 清松学園
幼保連携型認定こども園
か え で 保 育 園
園 長 引地 美津代

2024年度が始まりあっという間の1か月でした。年明けには皆が震撼した「能登半島地震」が起こり、翌日には飛行機事故。今年はどうなっていくのだろうと心配しながらの年明けでした。4日保育初めの日、いつもどおりに元気に登園し、いつも通りの遊びを楽しむ子どもたちにほっとできました。まずは、「能登半島地震」で被害にあわれた方々が一日も早く通常の生活に戻れるように祈るばかりです。西宮からは何もできないもどかしい毎日ですが思い返せば、29年前の「阪神淡路大震災」の時は全国から励ましのメッセージやボランティアに方々のおかげで復興をすすめていくことができました。日本人の文化はどんな時でも相手を思いやれる心を持っている。また、人の痛みをとて理解できる人種だと思います。微力ながらですが、かえで保育園でも「募金活動」を行い少しでも復興に協力ができればと考えています。お知らせをしますのでどうぞご協力頂きますようよろしくお願い致します。

さて子どもたちの生活ですが、1月の中旬には関西地域も今年一番の寒波がくる・・・という天気予報に期待し、保育園の様々なところに「氷」ができるよう子どもたちと水をバケツや入れ物に入れ「氷づくり」を仕掛けてみました。翌朝、うっすら貼った氷につかの間でしたが「氷遊び」が体験できたようです。また、先日、ひかり・だいちでいった「雪遊び」も雪は人工雪だけでしたが、例年にないくらい低温で、冷たい風がふき、何人かのお子様はあまりの冷たさに「もう帰る～」「寒い～」「もうバスに乗る～」とブルブル震えていましたが、ひとたびグレンデに出ると満面の笑みを浮かべながら滑っていました。「もう寒いから帰ろうよ～」とお声を掛けても「帰らない」「ずっと滑る～」。滑り終えて片付けるときも「また来る？」「もう一回きたい」。寒い中でも楽しい時間を過ごせ、みんなで雪中で遊ぶ体験でそれぞれの心に思い出がたくさんできた一日でした。



幼少期の体験は楽しいこともうれしいことも反対に悲しいこともつらいこともそれぞれが感じてそれぞれの記憶になっていきます。震災に合われた子どもたちも怖い思いがありましたが、人のやさしさや協力する力強さにも出会っているでしょう。子どもの時はできればたのしいやうれしい体験を多くしてほしいですがそれぞれの体験が大人に向かっていく「糧」になれるようそれぞれの場面で的確に導いていきたいと思います。

園長 引地 美津代

おねがい

- お子さまの体調不良などで緊急連絡をすることがあります。お仕事がお休みの場合は必ずお知らせ下さい。緊急連絡先の変更があるご家庭は速やかにお知らせ下さい。お子様の健康管理を致しますのでご家族の体調不良の際はお伝え下さい。
- 進級にあたり自分で荷物管理を進めていきます。着替えなどが間違えて持ち帰ることもあります。ご理解ください。

おしらせ

2月の予定

- 2日（金） おもちつき
- 9日（金）全園児お弁当日、幼児バス遠足
- 16日（金）誕生会
- 17日（土）2024年度 入園説明会
- 21日（水）避難訓練・月例健診
- 22日（木）博物館・ミュージアム見学（ひかり・だいち）
[だいちぐみの保護者の方のみ、酒蔵見学（2名）に参加できます。](#)
詳細は後日お知らせします。
- だいちつながり事業 学校体験
- 絵画14・28日（水）
- 体操1・8・15・29日（木）

3月の予定

- 9日（土） 卒園式（在園児は不参加）
- 15日（金） 全園児お弁当日、お別れ遠足
15日～17日 園庭砂場付近の補修
- 30日（土）新年度準備、職員会議
*今年度の整理・及び次年度の準備となります。
家庭保育のご協力をお願いします

4月の予定

- 1日（月）入園式、始業式

先生のメッセージ

先日友人と会う機会がありました。その時に友人は、大人になっても定期的に保育園時代の友人たちと集まって食事に行っていると話していました。また家族ぐるみでも交流があるようです。私は転々としていたため、そのような地元が一緒、そしてつながりが今でもあることに憧れがあります。かえで保育園の卒園生が、友だちや、弟妹のお迎えで保護者と一緒に、また今年の夏に行った中高生対象にした「おかえり DAY」など様々な遊びに来ています。卒園生の話を聞くと今でも友だちと繋がっているとくのが多いようです。そして、保育園で過ごした日常や「きっとできるだいぼうけんのひ」などの思い出が保育園に来ると思い出して話してくれます。そのような話や卒園生の姿を見ていると、きっとここで過ごした時間、そして友だちは、卒園後に会った友だちとはまた違う特別なものだったのだろうと感じます。今、保育園で過ごしているお子さまは、毎日保育者やクラスの友だち、異年齢の友だちと関わり、そして好きな遊びを見つけて思い思いに遊んでいます。園で過ごしたことが、今後の人生において「ほっと」できるものであるならば、本当に大切な時間を保育者として携われていると思いました。そんなことを考えさせられた友人との時間でした。

保育教諭 S先生

先日、初めて日本三景の一つである宮島に行きました。島内に「厳島神社」があるため、“宮がある島”として宮島と呼ばれるようになったそうです。海上に立つ社殿と海中に立つ大鳥居を横目にフェリーに乗って宮島を目指します。約10分間、波に揺られながらの時間はあっという間でした。神社を参拝したり、商店街での食べ歩きをしたりと、満喫した時間を過ごすことができました。宮島には至るところに鹿が生息していてとても驚きました。全く怖がった様子を見せず鹿に近寄って行く子どもを見て、すごいな、好奇心があれば怖いものなんてへっちゃらなんだなと思いました。大人になると失敗したら嫌だなとか、行動したその先のことが大体予想がつくのであえて挑戦しない等、子どもの頃のように後先考えず思いのままに動いていた時代が懐かしくなります。かえで保育園の子どもたちにも、躊躇せずたくさんのことにこれからも挑戦して欲しいと思います。

栄養士 H先生

メッセージ

年末年始には長女家族と次女が帰省をし、にぎやかな時間を過ごしました。毎年、年末には私の姉家族もわが家に来て「大忘年会と名付けた会」を行なっています。子どもたちが大人になり、皆の予定を合わせることも難しくなってきましたが子どもたちは「この会だけはずっと続けたい」と話してくれています。嬉しいことです。特に年末年始にはわが家のように家族が集まり、楽しい時間を過ごされていた方も多かったことと思います。そんな中、年明け早々に石川県で大きな地震がおこりました。ニュースで家族が身を寄せ合って暖を取られている姿をみていたら、阪神淡路大震災のときに母と小学校に避難をしたことを思い出しました。あれから29年の時が過ぎましたが、便利な世の中になっても災害に見舞われた時には教訓が活かされず、辛い生活を強いられたり、怖い思いをしたりすることを今回も感じました。いつどこで災害はおこるかわかりませんが「子どもの安全」を守るために危機管理として情報収集をしたり、災害や避難訓練の見直しをしたりしながら新たに園で取り組めることを考えていきたいと思います。

主幹保育教諭 F

ぐんと気温が下がり冷たい風の吹く季節、吐く息の白さにおどろいたり、体を動かすと暖くなることに気がついたり、冬ならではの面白さや心地よく過ごす方法を、生活や遊びの中から見つけられればきっと、子どもにとっても待ち遠しい季節の一つになることと思います。1月ひかりだいち組の雪あそびでは、西宮ではほとんど出会うことのない雪とたっぴりと触れた1日でした。帰園した子どもたちの荷物を整理していると、全てのポケットのチャックが開いている子、雪積もってたかな？と思う程ウェアが乾いている子、びしょ濡れの手袋に六甲の土もつけて帰ってきている子、身につけていたものから子ども一人ひとりのあそびの様子が目に浮かびました。季節柄、無事に行けるかどうかお子さまの体調にはらはらすることも多い行事の一つですが、今回残念ながらお休みとなってしまった子も、園の中で冬の楽しさを一緒に見つけることができればと思います。さて、11月1月と開催した保育参加では、園でのお子さまの様子、お友だちの姿や一日の過ごし方など、ゆっくりとご覧いただけたことを嬉しく思っています。帰り際に玄関でお声がけすると「ごちそうさまでした！」と食事の感想を教えてくださいの方が多く、栄養士も励みになりました。子どもたちの体と心の土台となるものが保育園の色々な場面に散りばめられています。園での体験を保護者の方にも経験していただく機会をこれからも多く持ちたいです。見えづかったことが見えるように、そして共に子どもたちの応援団として保護者の方と想いを交わしていきたいと思います。

主幹保育教諭 K

保護者からのエピソード

おうちでクラスのお友達や先生の名前を言うと、とっても嬉しそうな表情で「うんっ！！」と力強く頷く息子を見ると園生活を楽しんでいるのが伝わってきます。息子が出会う初めての「自分だけの世界」がかえで保育園で良かったなあと感じる毎日です。

めばえ組 ちえこさん

テレビに出てきたブロッコリーをみて「ブロッコリー！ほいくえんでたべたよ！」と教えてくれました。「〇〇言って〇〇したね」という話をしてくれ、覚えてるんやー！と驚くこともしばしば。これからもいろんなお話を聞かせてほしいです。

ふたば組 なつみさん

家では好きなものしか食べない娘ですが保育園の給食だけは毎日完食しています。「今日何が一番楽しかった？」と聞くと「えっとね。みんなでごはんを食べるのが楽しかった。」と教えてくれる日も多く、おいしさもさることながらお友だちや先生と一緒に食べることもごはんが進む秘訣のようです。

つぼみ組 ゆうほさん

姉妹喧嘩で弟を叩いたお姉ちゃんを私が叱ってしまいました。すると弟は私の耳もとで、こうつぶやきました。「僕叩かれたけど、叩かれていないってことにしてもいいよ。」

いぶき組 ひろしさん

「〇〇くんはくさりあみめっちゃ上手いねん。ぼくも上手になりたいから、家でもくさりあみしたい。」「××くんはコマまわし一番強いねん。負けないようにたくさん練習するんやで。」と保育園での様子をこのように伝えてくれました。友だちの良い所を認めて、どうすれば同じようにできるのかを考えていることに驚きました。そして、普段の友だちとの関わりの中で成長しているのだと感じました。

だいち組 ゆみこさん

普段の保育もそうですが、かえでフェスティバルを通して、子どもたちの小さな発見や、こうしたいという一つ一つの思いを、丁寧に汲み取ってくださっている様子に驚きました。後日、先生から作品に詰まったこだわりを伺い、子どもと話していると、キラキラとした目で楽しそうに説明してくれました。日々忙しく、親がつい見過ごしてしまう瞬間にも子どもにとってはかけがえのない経験があると感じました。家事の手を止めて、子どもをじっくりと観察する時間を持ちたいと思いました。

ひかり組 なぎささん

1月の子どもたちのようす



プランターにラディッシュとサラダ小松菜の種を蒔きました。
指先が器用に使えるようになり、一粒一粒そーっと摘んで土に落としていました。
収穫した後は、みんなでちぎってスープに入れてもらい食べる予定です。
大きくなる日を楽しみにしています。



お部屋の模様替えを行いました。すりばいからハイハイ、歩行と、たくさん動くことが出来る様になった子どもたちです。階段マットと足裏を刺激し発達を促してくれるマットを設置しました。
立ったまま階段をのぼってみたり、柔らかいシリコンマットを選んで歩いてみたり、思い思いに身体を使いながら楽しんでます。



先月、待ちに待ったブロッコリーの収穫を行いました。ずっしりとした重さのあるブロッコリーを手にとると、両手で大事そうに持って見つめていました。昼食に塩ゆでして食べると、一口目から「おいしい」と教えてくれました。これからも色々な食材に触れ、匂うことや味わうことの喜びを感じながら過ごしていきたいです。



誰かひとりが面白そうな遊びをしていると、次々に興味が広がっていくふたば組の子どもたち。園庭で泥団子を作っている友だちがいたら、気付けば数人が集まって泥遊びを楽しんでいました。
小さな手のひらで団子を作ろうとし、落として割れてしまっても泣くのではなく、友だちと笑い合いながら「もっかいする!」と繰り返し楽しんでいました。



クレヨンや画用紙で作った凧で凧揚げをしたり、つぼみ組の子ども一人一人にインタビューをして作った“つぼみかるた”やコマ回しなどのお正月遊びを楽しみました。
天気がいい日は、「たこあげやりたい」と子どもたちから声上がり、凧を高く上げようとテラスを勢いよく走って遊んでいます。
これからも昔からの伝統や文化に触れることができる機会を大切にしていきたいと思います



<むっくりくまさん>

ぐっすり寝ていたくまさんが、むっくり起きて目を覚ますと…。「たべちゃうぞー」「にげろー」とくま役も逃げる役も、どちらも楽しいおいかけっこ遊びが盛り上がっています。
友だちと一緒にやりたいな、やってみると面白い、楽しいという気持ちを積み重ねながら、少しずつルールのある集団遊びを経験していきたいと思います。





午睡前に絵本室で素話を聞く時間を作っています。卵型のライトをつけ、心を落ち着かせながら話を静かに聞く子ども達。この時間を「たまごタイム」とみんな呼んでいます。「今日はたまごタイムするの」と素話の時間を楽しみにしています。



今年初めての絵画あそびは、だるまを描きました。玄関に飾っているだるまですが、じっくり顔を見てみると「怒ってるのかな」「考えてるのかな」とよく観察していました。一人ひとり個性あふれる力強いだるまができました。にこにこ広場に掲示しているだるまの絵は、今にも話しだしそうな表情です。どうぞじっくり見て下さい。



栽培しているイチゴが実をつけ、赤く熟しました。年明けすぐに登園していた子ども達が見つけてくれたのですが、“みんなで食べたい”という思いから、冬季保育が終わるまで待つことに。

どれだけ小さくてもいいから、みんなで食べよう“という思いやりに溢れたアイデアに心がほっこりしました。食べた後も、「まだ食べてない人もいるから、いっぱいイチゴができる様にお世話しないと！」と、とても張り切っています。



身体を動かして遊ぶことを楽しんでいます。最近はボールを使って蹴ったり、投げたりする中で子ども達オリジナルのルールを作って遊ぶ姿も見られます。フープをゴールに見立てて、そこに入ったら OK！というルールで盛り上がっていたのを見守っていたのですが、「○色は3点ね」「こっちは動いてるから難しいよ」など自分たちでゲームが面白くなるように考え、アイデアを出し合っていました。遊びの中で友だちの意見に耳を傾けたり、自分の思いを言葉で伝える姿がとても増えてきています。



年明けからはまかぜグループに分かれ、朝の集いの司会をだいち組が進めはじめています。「おはよう」の挨拶、友だちの名前を呼ぶ、今日は何月何日、天気はどうか話をします。みんなの前で話すとなると「ドキドキする」と緊張していますが、顔を見ながら話すことや聞いてもらえるような話し方にも繋がっています。最後にみんなから名前を呼ばれると照れながらも嬉しそうに返事をしています。人に伝える経験と思いを込めて話す機会になればと思います。





年が明け、だいち組で十日えびすに行きました。福笹と5円玉を握りしめ「今年もかえで保育園のみんなが元気に過ごせますように…」と気持ちを込めてお参りしました。お参りをした後は毎年恒例、商店街の文房具屋で連絡帳を一人一冊ずつ買いました。次の日の持ち物を自分たちで確認し、準備することを自分なりの方法で連絡帳に書いていきます。

『字を書く』だけではなく、自分が覚えられる方法で書けるよう絵や数字で工夫して書く子もいます。分からないことは隣席の友だちに聞いたり、字が難しい時は自分がわかる絵や数を書いていきます。「小学校みたいだね」と学校への期待にも繋がっています。連絡帳は子どもたちからお家の方に見てもらうよう話しています。

『自分のことは自分で』と確認しながら用意の様子を見守っていただき『小学校ごっこ』を楽しみたいと思います。



ひかり、だいちで六甲山スノーパークへ雪あそびに行きました。

当日は、例年になく寒く曇り空で山の上はとても寒かったのですが雪を見つけると子ども達は「うわ、ゆきだ」と歓声をあげていました。おにぎりを食べて力をつけてからそりあそびがスタート。ひかり、だいちのペアになってすべりました。最初は緊張していましたがすべっているとみるみるうちに満面の笑顔に。「つぎは、まえにのってね」「うしろにのるね」と前後を交代しました。寒さで凍えていたのは最初だけ「もういちどいってくる」と何度も何度もすべりを楽しみました。

「またいきたいね」「おもしろかった」と子どもたちの弾んだ声がたくさん聞こえてきた雪あそびでした。



お台所から



今月の食育活動

1月11日

この日のメニューは「筑前煮・紅白なます・煮豆」を取り入れたおせち料理風のお昼ごはん、おやつでは大根とほうれん草が入った野菜粥を食べました。また、POPや本物の七草を玄関のお台所コーナーに展示したり、つぼみさんや幼児さんの部屋に回って七草を実際に見てもらいました。七草に少しでも興味をもってくれれば嬉しいと思います。手作りふりかけも一緒に登場したことで、最初は減らしてほしいと言っていた子もおかわりをしてくれるほどたくさん食べてくれました。子どもたちが今年も元気いっぱいにご過ごせるようこれからも心を込めてごはんを作っていきます。



1月17日

防災の日は、「おにぎり・豚汁・みかん」という献立でした。お話を聞いて、味わってお昼ごはんを食べていました。厨房でも保存食や災害用備蓄品の確認を行いました。いつ、どこで起きるか予想がつかない災害。もしもの時に備えて、普段から備蓄食を準備しておくことが大切です。ご家庭でも備蓄の確認をしてみてくださいね。

～2月の献立・予定している食育活動～

先月に引き続き白鹿の酒粕を使用した「かす汁」が登場します。また2月の行事のひとつである節分には愛情込めてキンパを作ります。また、旬の食材であるカリフラワーが入ったお汁や、「かぶのサラダ」も献立にいられていきます。感染症に悩む季節ですが、衛生面に気をつけながら、その日に使用する野菜を各クラスの子どもたちに紹介する食育活動や、だいちさんのお米当番も復活していきます。

栄養士H先生・N先生

2月のあそびへの思い

めばえ

年が明け、あっという間に新しい言葉が出ていたり、歩く距離が長くなっていたり、冬期休みでの成長を改めて感じました。

懇談会でもお伝えさせて頂いた様に、これからこどもたち自身で「やってみよう」「やってみたい」の気持ちが増えていきます。スプーンを使い自分で食事をしたり、かごから帽子を取ったり、座った椅子を片づけたり、子どもたちの意欲を大切にしつつ、丁寧にに関わり「やってみたい」を大切にしていきたいと思います。

また、12月に球根を植えたチューリップが少しずつ芽を出し始めました。まだまだ寒い日もありますが、めばえ組の子どもたちと一緒に大きくなる様子を見ていきたいと思います。

ふたば

ふたば組での生活も残り2ヶ月となりました。子どもたちに「もうすこしてつぼみさんだね」と話すと、嬉しそうにしています。今年に入ってから

はさみを保育者と一対一で使う体験をしました。子どもたちは普段あまり使うことのないものを扱うことに緊張しながらも真剣に集中して取り組んでいます。日に日にできることが増えていくこの大切な時期に、色々な経験を通して自分の自信に繋がってくれたらと思いながら保育を進めています。又、園庭ではわらべうたの「むっくりくまさん」で遊んだり、室内では絵合わせカード等のルールのある遊びを取り入れながら、少人数での友達との関わりを楽しめるように見守っていきたいです。

つぼみ

寒さが厳しい毎日ですが、園庭では「けいどろ」や「むっくりくまさん」など元気いっぱい走って過ごしています。つぼみ組で過ごすのもあと2か月となり、子どもたちの中に、もうすぐいぶき組という意識が少しずつ見られるようになりました。身の回りのことを自分からすすんで行うようになり、着脱の際は、脱いだ衣服を丁寧に畳んだり、おやつの際は、飲み終えたコップやお皿をカゴに片づけたりしています。子どもたちの自分でやってみようとする姿を見守り、できた際はたくさん褒めることを大切にしながら関わっています。また進級に向けて、子どもたちの生活をていねいに見直しながら次へすすむ幼児クラスにむかって過ごしていきたいと思います。

いぶき

「あけましておめでとうございます」と元気いっぱいの挨拶で新年がはじまり、「休みの時はなにしてたの」と友だちと会えたことを喜ぶ姿がたくさん見られ、すこしの間離れていた時間を取り戻しているかのようでした。ままごとでは、赤ちゃんのお世話をしていると子どもから「ベビーカーを作りたい」と数人でベビーカー作りが始まりました。完成後はみんなでベビーカーに赤ちゃんを乗せて楽しんでいます。園庭に出ると、小さい友だちに目を向ける姿も増えました。ままごとだけではなく実際にお世話をしてあげたい気持ちが強くなっています。下駄をしていたら手を差し伸べてあげたり、話しかける時は膝を曲げ同じ目線になって話しかけたり、今までお兄さんお姉さんにしてもらったことを、今度は自分たちが年下の友だちへ…と、自然と繋がっているように感じます。“誰かのためにしてあげたい”という優しい気持ちをこれからも大切にしていきたいです。

ひかり

先日のクラス懇談会にご参加いただきありがとうございました。子ども達の今の様子や取り組みを知って頂けたかと思います。また、保護者の方の思いも聞くことができ、嬉しく感じました。伝えていただいたご意見も参考にしながら、これからも子どもの興味をもっと広げてプロジェクトにできるように関わっていきます。さて子ども達とはいうと、六甲山スノーパークにゆきあそびに行きました。数日前から楽しみな気持ちで溢れていた様子でしたが、気温が低く寒さから泣いてしまう子も…。そんな中でも、自分で荷物を持ち、自分でウェアに着替え、しっかりと自分のことをこなそうとする姿に成長を感じました。そりすべりは存分に楽しんでもらえたようで、「もっと遊びたかった」「もうかえるん？」と帰ることを渋っていました。それほど楽しんでもらえたのかとこちらも嬉しくなりました。



だいち

1年のはじまりは、久しぶりに会った友だちと羽子板やたこあげと正月あそびを楽しみながら過ごしました。年が明けると子どもたちから『卒園』の言葉をよく耳にします。最近、めばえ組、ふたば組の子と園庭で手を繋いだり、一緒に砂場で遊ぶ機会が増えてきました。「ぼくが赤ちゃんのとき何してた?」「覚えてることもあるけどな～」と話しながら思い返す姿も見られます。卒園前になるとこんなことができたらなと『今からできること』を考えがちですが『こんなことができるようになったね』『おおきくなったね』と見方を変えることも大切だなと感じます。お家の人、先生や友だち等、身近に見守ってくれている人が必ずいること、今の自分がいることを感じられるよう、周りの人への感謝の気持ちを伝える機会もつくっていきます。

はまかせ

子どもたちはお正月あそびを楽しんでいます。凧づくりでは思い思いの絵や模様を描きたこ糸をつけて出来上がるとすぐに園庭へ。うまく風を捉えてふんわり飛ばすことができた子もいれば、地面をひきずってしまう子も。そんなときはお兄さん、お姉さんから「もっとうでをたくくあげてはしるねん」「つきやまのうえからはしるととぶで」ちょっとしたコツを教えてもらうとなんだかうまく飛ばせることができるような気持ちになり何度も挑戦していました。羽根つきではだいちの子どもたちが向かい合いながら打ち合いますがとんでもない方向に羽根が飛んでいき大声で笑い合っていました。そんな楽しそうな姿を見て、いぶき、ひかりの子ども達も羽根つきを始めます。子どもから子どもへと楽しい雰囲気伝わり、あそびが繋がっていくことがこれからも続いていてほしいです。

